

小学校第3学年 音楽科学習指導案

日 時 平成〇年〇月〇日 〇校時

授業者 〇〇〇〇 (T1) 〇〇〇〇 (支援員)

1 題材名 リコーダーとなかよしになろう

2 本時の指導 (5/7時)

(1) 目標

○息の強さやタンギング、音の重なりに気を付けて友達と音を合わせることを通して、きれいな音色で「そよ風」を重奏することができる。(A表現 (2) 楽器エ 音楽表現の技能)

(2) 授業構想

児童は、この題材を通して、初めてリコーダー二重奏を経験する。「小鳥のために」の鑑賞では、音色や旋律のおもしろさや美しさを感じ取り、演奏へ期待感を膨らめた。練習では、最初は押さえる穴が分からなかったり、息の調節がうまくいかなかったりして、思うように音が出ないことがあった。朝の会や休み時間に練習し、運指にも慣れ、次第に音がスムーズに出るようになってきた。

本時では、左手を使って5音で演奏できる練習曲を演奏する。特に気を付けたいことを、息の強さ、タンギング、音の重なる3点の中からグループで決めて練習をする。互いの音を聴き合いながら、重なり合う響きの心地よさを味わい、友達と演奏する楽しさや「できた」という気持ちを味わわせたい。

(3) 展開

学習活動 ・ 予想される児童の表れ	指導の工夫 (☆焦点化 □視覚化 ◇共有化) ◎個への支援 ○その他の支援	工夫
1 「そよ風」(パートごと)を演奏する。 2 本時のめあてをつかむ。 友達と「そよ風」の1と2を合わせ、きれいな音色で重奏しよう。	○本時の活動にスムーズに入れるように、前時までに自分の演奏するパートを決めておく。旋律を確認するために、パートごとに全体で演奏する。	
3 「そよ風」を演奏する時に、気を付けることをグループで話し合う。 ①息の強さ 優しく吹く。 ②タンギング トウトウ ③音の重なり 友達の音を聴く、合わせる。	○CDを聴き目指す演奏をイメージする。 ☆きれいな音色で重奏するために気を付ける点をカードで提示する。 □◇グループでどのような演奏を目指すか、気を付けること決めてから、練習に入るようにする。	① 焦点化 ←ここをクリック ② 共有化 視覚化 ←ここをクリック
4 グループで「そよ風」の練習をする。 ・友達の音をよく聴いてタイミングを合わせよう。 ・最後が合うように、2拍で吹き終わろう。 ・曲のイメージに合わせてやさしく吹こう。 ・音を伸ばしてハーモニーを確かめよう。 5 グループごとに発表し聴き合う。	◎リコーダーが苦手な児童には、運指表を確かめながら演奏するように言葉を掛け、見届ける。	③ 個別の配慮 ←ここをクリック
6 感想を書き、発表し合う。 ・タンギングに気を付けて演奏をすることができました。 ・息をそろえると音がそろってくるのが分かりました。 ・Aグループは曲のイメージに合った音色でした。	◎感想を書くことが苦手な児童には、各グループの気を付けることに注目するよう言葉を掛ける。	

3 評価

・息の強さやタンギング、音の重なりに気を付けて、きれいな音色で重奏することができたか。

	写 真	説 明
①		<p>【焦点化】</p> <p>リコーダーでの重奏を初めて行うにあたり、学級の実態を考慮して、演奏する時に気をつけることを「息」「タンギング」「音の重なり」の三つに絞って提示しました。更に、特に気を付けたいことをグループごとに決めさせました。</p> <p>気を付けることが絞られ、具体的にどう演奏すればよいのかが分かりやすくなったことで、集中して練習を続けることができました。</p>
②		<p>【共有化、視覚化】</p> <p>グループごとに、特に気を付けることを話し合っって決め、気を付けることのカードの横にグループ名が書かれたマグネットを貼りました。</p> <p>グループごとの練習では、特に気を付けることが確認しやすく、具体的にどうすればよいのか考えたり、友達の演奏のよいところや改善点を指摘し合ったりすることができました。</p> <p>発表の際にも、それぞれのグループが気を付けることをどのように演奏に生かしていたかという視点をもって聴くことができ、感想が深まりました。</p>
③	<p>音の重なりが分かる楽譜</p>	<p>【個別の配慮】</p> <p>練習では、教師が机間指導しながら、個人の支援をしました。その際リコーダーが苦手な児童に対して、運指表を確かめたり、書き込みをした楽譜を用意しておき、視覚的に音の重なりが理解できるようにしたりしました。</p> <p>個別での練習が進み、グループで音を合わせるまで目指せるようになりました。</p>

指導案に戻る

指導案に戻る

指導案に戻る